

千崎千恵夫

眼差しの奥にむかって

Senzaki Chieo
*Toward the Depths of
the Gaze*



2026年10月24日(土) — 12月13日(日)

October 24 Sat. — December 13 Sun., 2026

開館時間：10:00–17:00（入場は閉館の30分前まで） 休館日：月曜日（ただし11/23は開館）、11/24（火）

Hours: 10:00–17:00 (Last admission 16:30), Closed on Mondays (except November 23), November 24

主催：広島市現代美術館 後援：広島県、広島市教育委員会、中国新聞社、朝日新聞広島総局、毎日新聞広島支局、読売新聞社広島総局、
中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、尾道エフエム放送 協力：gallery21yo-j



広島市現代美術館
Hiroshima City Museum of Contemporary Art

千崎千恵夫

眼差しの奥にむかって

Senzaki Chieo: Toward the Depths of the Gaze

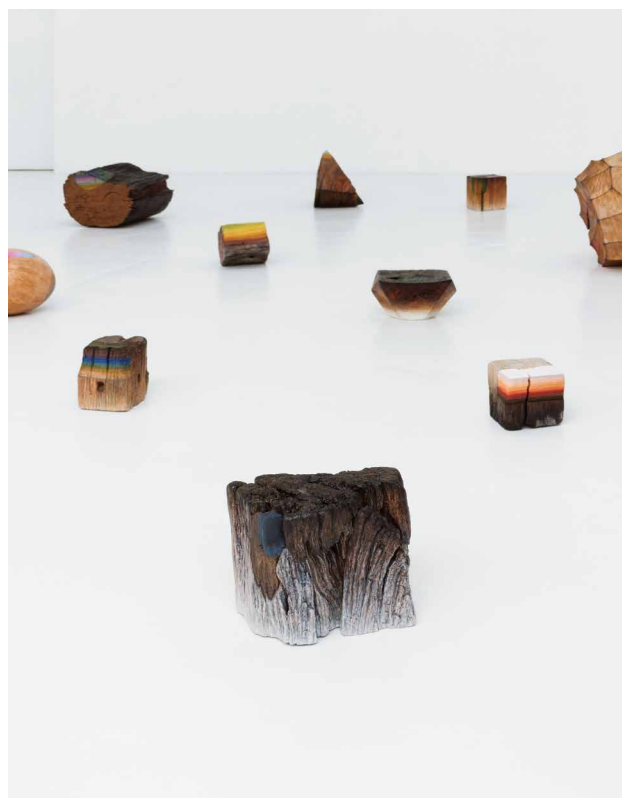
千崎千恵夫（1953～）は東京藝術大学に在学中の1979年にその本格的なキャリアの第一歩を踏み出した広島県呉市出身のアーティストです。1980年代を通して、時に、建築内外の空間を取り込む大規模なインスタレーションを展開しながら「自然と人工」というテーマを追い求めた千崎は、ドイツに滞在中の1990年頃に境に単体の作品のシリーズ、あるいはそれらを構成要素とするインスタレーションによって同じテーマをさらに多角的に探求するようになりました。本展は、この1990年以後に制作された最新作を含む約100点の作品で構成されます。

千崎は「自然」と「人工」を切り離し対立的に捉えるのではなく、両者をひとつづきのものとして捉え、そのあいだに立つ人間のあり様を見極めようとします。そのような彼の眼差しは、広島が経験した原爆の惨禍、すなわち自然界の物質に宿る膨大なエネルギーを取り出すという人為がもたらした決して言葉のおよぶことのない重大な事実を知り、その爪痕を目にすることを通して少しずつかたちづくられたものでした。そして今回の展覧会タイトルにある「眼差しの奥にむかって」という言葉には、単にものごとの外形的な表面を見るのではなく、その奥、さらにその奥へと眼差しを送り込むことで対象が宿す不可視の普遍性をも見ようとする作家の意志が込められています。表面的な価値観の違いが容易に分断を引き起こし、あらゆる場所に対立が深まる現代社会の混迷の中にあって、千崎の眼差しはその状況を乗り越えるための道筋を必ずや指し示してくれることでしょう。

Senzaki Chieo (b. 1953) is an artist from Kure, Hiroshima Prefecture, who took the first significant step in his career in 1979 while studying at Tokyo University of the Arts. Throughout the 1980s, he pursued the theme of the natural and the artificial, at times creating large-scale installations that incorporated both interior and exterior architectural spaces. Around 1990, while living in Germany, his approach shifted, and he began exploring the same theme from a wider range of perspectives through series of discrete works or installations assembled from these works. This exhibition brings together approximately 100 works made since 1990, including his most recent.

Rather than separating the natural and the artificial and treating them as opposites, Senzaki sees them as a continuum and seeks to discern how human beings exist along this continuum. His gaze was gradually shaped by his awareness of the devastation wrought by the atomic bombing of Hiroshima and by seeing the scars it left on the city. This was a reality of inexpressible gravity, brought about by human intervention that released the immense energy latent within all matter. The exhibition title, *Toward the Depths of the Gaze*, conveys the artist's determination not merely to look at the surfaces of things, but to direct his gaze within them, and deeper still, to perceive the invisible universality they conceal. Amid the chaos of present-day society, where superficial differences in values readily cause polarization and antagonism is intensifying everywhere, Senzaki's gaze will surely point the way beyond these divisions.

同時開催 「コレクション展2026-II」10月10日（土）～／「もつれる風景 平井享季」10月24日（土）～／「プラチスラバからやってきた！ 出会う、つながる世界の絵本」11月14日（土）～



表面。《赤い内部を持つ形》（部分）2014年、photo: Shiigi Shizune／1. 《ベクトル（足跡）》1990-91年頃、photo: Okano Kei／2. 《人為》1992年、photo: Kato Ken／3. 《層一時のカケラ》シリーズ、photo: Shiigi Shizune／4. 個展「千崎千恵夫〈赤い内部を持つ形〉」（2014年、gallery21yo-j）展示風景、photo: Shiigi Shizune／5. 左：《層―桃色へ》2013年、右：《層―白へ》2012年、photo: Shiigi Shizune／6. 「表現は表面から」千崎千恵夫、松井紫朋 二人展（2016年、東京画廊+BTAP）展示風景

関連イベント

アーティスト・トーク

10月24日（土）15:00-16:00

*要展覧会チケット、申込不要

千崎千恵夫と松浦寿夫（画家、美術史家）による対談

11月21日（土）15:00-16:30

会場：メディアライブラリー

*聴講無料、申込不要

展覧会担当者によるギャラリートーク

11月7日（土）、12月5日（土）15:00-16:00

*要展覧会チケット、申込不要

アートナビ・ツアー（アートナビゲーターによる展示解説）

毎週土・日・祝休日 各日11:45、14:45開始

※10/24、10/25および上記イベント開催時は除く

*要展覧会チケット、申込不要

〔観覧料〕 一般1,100円（850円）、大学生800円（600円）、高校生・65歳以上550円（400円）、中学生以下無料 ※（ ）内は、前売り及び30名以上の団体料金

◆前売券販売所…広島市現代美術館受付、オンラインショップ「339」※販売は10月23日（金）まで ◆県美×現美×ひろ美 相互割引…会期中に広島県立美術館、ひろしま美術館で開催される特別展チケット（半券可）を受付に提示いただくと、観覧料が100円割引になります。※1枚につき1名限り、他の割引との併用はできません。



広島市現代美術館
Hiroshima City Museum of Contemporary Art

〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1
1-1 Hijiyama-Koen Minami-ku Hiroshima
Tel: 082-264-1121 www.hiroshima-moca.jp



展覧会情報
Exhibition
Website



アクセス
Access